地域情報誌

和合

No.95
2013.10.20

題字：三浦修次

ほら、つかめだ！
（和合の里ふれあい交流事業「ざっこしめ!」）

主な掲載記事

和合ってどんなところ……2
ふるさとを想う……2
年中行事（行事食）……3
和合の里のお地蔵様……3
老いないために……4
和合の交番……4
亀治からのメッセージ……5
せんせいあのね！……6
私の健康・健康レシピ……7
地域インフォメーション……8

和合ってどんなところ

余目第四小学校
高橋岳人先生

余目四小赴任２年目。初日から衝撃が走る。

体育館の使用を中止しなければならないというのだ。関係団体への連絡からその年の仕事が始まった。突然のことで何が何だかわからない。学校職員でさえ、そのような状況であるから地域の皆さんにとっては、なおさらであったことだろう。

夜に説明会が行われ、私も出席した。空気が張りつめていた。何とも言えぬ緊張感があった。説明に対する質問や意見等がどんどん出される。皆さん真剣である。参加者の中には、自分の子や孫が小学校にいない方もたくさんいた。なのに、なぜそこまで真剣なのだろう。その後も何度か体育館改築に向けての話し合いが持たれたが、地域の皆さんはいつも真剣であった。授業はどうなるのか、行事等の対応はどうなるのか、そのような設計で学校側は困らないのかなど、いつも子どもたちや学校のことを思って発言してくださった。

校内の花がなくなそうになると、届けてくださる方がいる。クラブ活動をすれば、いつもかけつけてくださる地域の先生がいる。田んぼや畑の指導をしてくださる地域の先生がいる。どこの地域にも進んで手を挙げてくださる見守り隊の方々がいる。学校には、いつも応援団がいる。

「子どもは地域の宝」「おらほの学校」。和合の里に満ちた精神である。何とも心強い、ありがたい応援団である。

ふるさとを想う ～寄せられた、“ふるさと”より～（前編）

・村の中で幼馴染と鳥が鳴くまで遊んだこと。祖父や両親の稲刈りの姿。季節や行事の折々にかつての思い出がよみがえってくる。原点は生まれ故郷なんだとつくづく思う。
・ふるさと探訪の折……昔の田んぼの面影もなく、小出沼と最上川の川べりは公園とカート場に姿を変えていた。蛍の光が消えて寂しいが、絶滅寸前に追い詰められたイナゴは復活しており、ほっとした。
・ふるさとを離れて40余年がたち、年々ふるさとへの思いが純化されていくようだ。今思うに、雅な趣の名の十六合小学校、現在を予測したかのような名の大和中学校、共に廃校となったが、私の原風景である。
・子どものころの季節が好きだったのは“春”である。雪解けの中で、小さな草花が顔を出したり、キラキラと目に眩しい太陽を見上げた時の開放感は実に嬉しく、素晴らしい。また、何と言っても広々とした庄内平野と鳥海山である。昨年帰省した時も、大好きな風景が出迎えてくれた。

【昔の子どもの頃の思い出や風景が原点である。そして離れて気付いた和合の里の良さは、自然豊かなこの地であり、いつまでも美しくいて欲しいと願っている。】

おらほの年中行事

●稲番〈十月～十一月〉

杭掛けの稲の盗難防止のための出番を稲番といって、その場所を稲番小屋といった。

天気が続くと、若い衆で稲の盗み防止のため番小屋を二ヶ所に建て、小屋を中心に夜七時～九時位の時刻に二・三組でまわる。昭和二十年頃まで行われていた。火事が多かったといわれている。

●田の神上げ〈十一月〉

春に山から下って田の神になった山の神が、勤めを終えて山に帰る。

春に田の神下ろしをし、収穫の終わる秋に行う。感謝を込め、神の座をつくり、膳と酒を供え祝った。神仏や屋敷神にも餅を供える。

勤労感謝の日でもある二十三日は、一年間田畑を守ってくれた神様に、冬になるので休んでもらう行事でもある。

～余目町の民俗年中行事より抜粋～

★ いなご煎り ★

《材料》

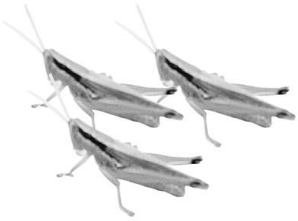
・いなご……1枡　・砂　糖……500g
・しょうゆ、みりん、酒……それぞれ1合

【作り方】

① いなごを熱湯に入れてゆでる。ざるに上げてゴミなど拾いきれいにする。
② 油でいため、あく汁をとる。
③ 調味料がなくなるまで煮詰めて、かき混ぜる。
④ 冷めたらカリカリになるように、から煎りする。

＊ポイント＊

・こげがつかないように、かき混ぜて!!



和合の里のお地蔵様 京島編

〈語り手〉菅原高志さん
戸屋一雄さん

イラスト：工藤昭子

京島（きょうじま）は「中嶋村」と称した。一六一六年の開村で一八七六年四月、京島村（みやこじまむら）と改めた。現在は京島（きょうじま）と呼んでいるが、いつ頃からそう呼ぶようになったのかは分からない。

今は神社に鎮座する五体のお地蔵様だが、明治二年作成の中嶋絵図によると、今も『地蔵曲がり』と呼ばれるところにあったようだ。

平成二十四年の爆弾低気圧によって、お地蔵様はお堂ごと倒されたので、それからはきちんと固定している。

現在では、八月二十四日の地蔵祭でご詠歌を唱え、子どもたちに袋菓子や飲み物などを渡している。その年に子どもが授かると、腹巻などを着せ感謝して祈りを捧げている。

そのおかげなのか、近年子どもが授かり有り難く思うし、いつの日も子守り地蔵として神社で遊ぶ子どもたちを見守っていて欲しいと思う。

〈聞き手〉富　樫

“とし”とっても、老いないために!!

お口の健康から全身健康に！

◎お口の健康が介護予防に

いつまでも健康で長生きするためには、心身のおとろえを予防することが大切です。そのためには、日常生活の中でちょっとしたくふうが必要です。くふうすることが介護予防につながります。

◎お口の健康のポイント

①食後は必ず歯をみがきましょう〈自分の口に合った硬さ・大きさの歯ブラシを選ぶ〉。
毎食後がムリなら一日一回は、すみずみまできれいに、ていねいにみがきましょう。
②義歯（入れ歯）も、毎日しっかり洗浄しましょう。
③歯ブラシが使えない方でも、口内の洗浄をしましょう〈ガーゼで拭き取る等〉。
④糸ようじ・歯間ブラシ・洗口剤　等も活用しましょう。
⑤口の機能維持のため、日頃から舌・口・顔面の体操を心がけましょう。
⑥定期的に歯科健診を受けましょう。

体のおとろえを防ぐためには、食事をきちんと摂ることが欠かせません。
食べ物をおいしく感じ、しっかりかんで食べるためにはお口の健康が第一です。

◎高齢者総合相談窓口（介護相談・心配事などお気軽にご相談ください）

●庄内町地域包括支援センター
（介護センターほほえみ内）TEL **45－1030**

●庄内町地域包括 立川サブセンター
（庄内町役場立川庁舎内）TEL **51－2505**

和合の交番

見せる・見えるで、安心の夕暮れ

日没が早まるこの時期は、夕暮れ時から夜間にかけての交通事故が多発する傾向にあります。夜行反射材や明るい服装の着用と、早めのライト点灯で、お互いアピールしあって、交通事故の防止に努めましょう。

◆歩行者は…

・道路を横断するときは、「いつでも・どこでも安全確認」をしましょう。
・夕方以降の外出では、明るい服装と夜光反射材を身につけましょう。

◆運転者は…

・ヘッドライトをこまめに切り替えて、ハイビームを活用しましょう。

薄暗くなり始めたと感じたら、早めのヘッドライト点灯を!

亀治からのメッセージ

亀ノ尾の里資料館

●企画展「阿部亀治と亀ノ尾」開催中

新米の季節となりました。皆さんの食卓ではどのような品種のお米を食べていますか？庄内町の主力品種「はえぬき」？おいしいと評判の「コシヒカリ」？それとも山形県一押しの「つや姫」でしょうか？

これら（まだまだありますが）私たちが一度は耳にしたことがあるおいしいお米の品種には「亀ノ尾」の遺伝子が受け継がれています。亀ノ尾の里資料館では、和合の里で生まれた亀ノ尾の創選者「阿部亀治翁」の功績と「亀ノ尾」誕生までの歴史を紹介しています。また同時に、亀治翁も行ったであろう「稲刈り・ひけし作業」で使われた道具も多数展示しています。この展示は、12月1日（日）まで。この機会にぜひご来館下さい。

道具図鑑

●稲刈り鎌…稲を刈る鎌。稲刈り鎌は、ギザギザのついた鋸歯状（のこはじょう）になっている。この「のこぎり鎌」を考案したのは、庄内町余目新田の佐々木皆吉（ささきみなきち）である。それまでの稲刈り鎌は草刈り鎌のようなもので、すぐに切れなくなるため一日に何回も研がなければならなかった。

大正十年代には全国に普及し、農民の苦労は極めて軽減されるようになった。

●千歯こき…稲穂についた籾をとる脱穀作業に使う道具。「一日に千把も脱穀できる」また「たくさんの歯がある」ことからこの名前がついたと言われている。千歯こきが登場する前は、「こきはし」とよばれる竹のはしのような道具を使い、手で少しずつ脱穀する人手と時間がかかる作業だった。江戸時代、千歯こきの登場は農作業の効率を大きく高め、足踏脱穀機が普及する昭和十年代まで広く使用された。

亀治の目

堰の水が止まり、稲刈りが終わった。今年は雨が多かったのにも関わらず上作ということで農家の皆さんもまずはひと安心といったところだろうか。

今年は各地で水の被害があった。庄内町大野の阿部治郎兵衛が創選した「大野早生」という稲がある。水害に強いお米が欲しいという思いが生んだ品種だ。冷害に強いお米が欲しいという思いから「亀ノ尾」は生まれた。病害虫に強いお米が欲しい、倒れにくいお米が欲しいなど人々の願いは受け継がれ、今は遺伝子レベルでの研究が続けられている。これから先お米はどんな進化を遂げるのだろうか。

よつばっこ通信 第四幼稚園

～“みなみ”でおいしいパンを買ったよ～

せんせい、あのね！

～テラスで蛇の抜け殻発見!!「僕、お金持ちになるんだ!!」～

A男・B男：「蛇の皮、発見!!」
T(教師)：「蛇の皮どうするの？そういえば、蛇の皮を財布に入れておくとお金持ちになるというお話があるみたいだよ」
A男：「僕、お家に持っていく！お父さんとお母さんにあげるんだ」
T(教師)：「お祖母ちゃん、お祖父ちゃんにもあげたら？」
A男：「…」
T(教師)：「喜ぶんじゃない？」
A男：（ちょっと小さな声で申し訳なさそうに）「お祖母ちゃんには、お金がいっぱいあるもん」（良く見てるね）
B男：「僕はねえ、自分の黄色の財布に入れておくよ!」
さあ、その日は数人の子が蛇の皮を大事そうに持ち帰りました。
さて、今は誰の財布に入っているかな？

「南野にパンを買いに行こうよ！」「行きたい！行きたい！」「パン大好き～」

９月18日の天気の良い日。地下道を通って、信号を渡って、南野まで１キロをボランティアのお父さんお母さんも一緒に、てくてく歩いてパンを買いに出かけました。

※就労支援施設『みなみ』では、いろいろなおいしいパンを作って販売しているそうです。『みなみ』の皆さんが、お店を広げて待っててくれました。子ども達は、100円を握りしめて、イチゴジャムパイとブルーベリージャムパイから自分で選んで買いました。「イチゴジャムのパンください」「こっちのパンください」とお話すると、手作りの紙バックに１個ずつパンを入れて渡していただき、受け取った時の子ども達はニコニコ笑顔に早変わり。もう一回バックの中を覗き込んでうれしそうでした。南野グランドで、さっそく大きな口を開けて「おいしい～!!」「クリームも入ってる!」と、パクパク食べました。おまけにいただいた、いろいろなパンもみんなで分けて食べました。「おいしかった！また買いに行こうね!」

※就労支援施設…障害を持つ方たちが、外に出て仕事ができるように訓練するところ。

～四小っ子～ 第四小学校

～ はえぬき収穫 ～

今年もみごとな黄金色に実った稲穂。毎年5年生の児童が、自分たちの手で田植えや溝きり、夏休みには天気なども気にしながら交代で観察をし、この日を迎えた。

刈り取りにはコンバインも登場し、学校田の指導をしている阿部伸也さん（沢新田）、阿部耕祐さん（小出新田）そしておじいちゃん、おばあちゃんの協力もあり、手際よく作業していた。

11月後半「収穫を祝う会」では、食べ比べなどをし、実りの秋を楽しむ予定だ。

私の健康

奥山　篤弘さん（古関）

私の祖父と父はいずれも40代前半で他界している。私も長生きは出来ない家系と覚悟を決めていた。だからといって今まで特別に健康に留意してきたこともない。それが何と、70代になっても元気な毎日である。

ただ好きで一日30本、40本と吸っていたタバコは42歳頃でやめた。これとて健康を考えてのことではない。35歳で胃潰瘍、十二指腸潰瘍になり検査のたび３時間も４時間もタバコの吸えない苦しい経験からである。悪戦苦闘の末、やめることができた。今にして思えば健康に良かったのかもしれない。

今は、３年前から始めたゲートボールの虜になっている。競技が始まって第一ゲートに向かって立った時の緊張感は、まっ黒になって白球を追った少年時代の野球を彷彿する。バッターボックスに立った時のあの緊張感はゲートボールにそっくり、いま有るのである。今の緊張感を持っている限り、増加傾向にあるといわれる、認知症などには縁遠いのではと思っている。

健康レシピ

鶏肉の しょうゆの実漬け焼き

◎材料（4人分）

	鶏肉	1人60gで4切
Ⓐ	しょうゆの実	24g
Ⓐ	しょうが	4g
Ⓐ	酒	2cc
Ⓐ	砂糖	4g

◎作り方

① 鶏肉をⒶの調味料で下味をつけ２～３時間冷蔵庫に入れておく。
② フライパンで焼く。（こげやすいので、中火で様子を見ながら焼いてください！）

※他にも豚バラ肉を炒めて、しょうゆの実で味付けしご飯にのせたバラ肉丼も簡単でおいしいですよ!!

とうふと しょうゆの実の春巻き

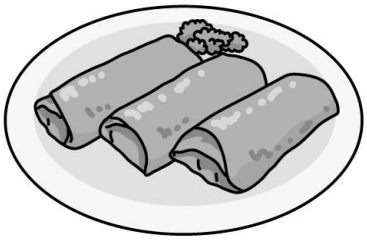
◎材料（4人分）

とうふ	200g
しょうゆの実	100g
春巻きの皮	12枚
片栗粉	少々

◎作り方

① とうふを５mm<らいのサイの目切りにする。
② 切ったとうふとしょうゆの実を混ぜ合わせ、つなぎに片栗粉を加える。
③ ②を春巻きの皮で包む。
④ 油で揚げる。

※おつまみにもＯＫです！



地域インフォメーション!!

☆人がつながる和合の里☆ ～いろんな秋、みーつけた！～

☆スポーツの秋☆

まだ暑さも残る9/1(日)、前田野目ひだまりＧＧ場では大人も子どもも一緒になってグラウンドゴルフを楽しんだ。

日ごろの練習の成果もあって、ホールインワンを何度も出す人の姿があった。参加した子どもたちもなかなかの腕前で、一緒のチームで回るリーダーはスコアを見ながらひやひやした様子。(後半はどんな作戦で回ろうか……?!) そんな中でのプレーは世代を越えた交流となった。

団体の部での優勝“南野Aチーム”。賞状を手に部落公民館での記念撮影では笑顔が溢れていた。

☆芸術の秋☆

四小の体育館いっぱいに太鼓の音が響き渡る。“おなかさひびぐ～”と両手で押さえながら、見たこともないような大きな太鼓に驚いていた、かわいい園児。

身近にある道具(イスやほうき)を使いリズムを刻む、『La、ハラトミ太鼓』の皆さん。『あ～～、明日、学校では必ず真似すっぜの！掃除の時間だの(>_<)』と笑いながら保護者からの声があった。

命や食べ物、人との出会いの大切さを歌で表現する『須貝智郎さん』の迫力ある歌声には、大人から子どもまで元気をもらった！歌に合わせて踊りだしたり…。音楽の素晴らしさを体感し、楽しい時間を過ごした。

☆食欲の秋?!☆

稲刈りも進んだ秋晴れの空の下、地域のみんなで“ざっこしめ！”をした。ここは、吉方調整池。「早ぐ～。いっぺつかまえっで～。」と待ちきれない様子の子どもたちだった。魚の種類などの話を聞いたあと、「こごさ、でっけ魚いっだ♪」「カニもいっだ～♪」と元気な声が響いている。全身泥だらけになりながら、魚を追いかける子どもたち。それを見守る地域の方の一人ひとりの笑顔が印象的だった。

「家さ持って行って食べんなが？ばっちゃんがら煮でもらえよ！」温かいこんにゃくが冷えた体をあたためてくれた。

編集後記

実りの秋から一転、田んぼには白鳥の姿も現れた。振り返ると地域のふれあいが多くあった。世代を超えた交流により、人を好きになる。

ある日、四小で【児童文庫　第貳號　昭和十三年十二月廿三日新調　代價金拾圓也　十六合小學校】と書かれた古びた棚を見つけた。おそらく大和、十六合小学校が統合した際のものと思われる。教材室や体育館、調理室には、鍋やたらいなどにも【大和小學校】と書かれたものも残っていた。今でも子どもたちのために、大切に使われている。

自分の住むこの和合の里をもっともっと知りたいと思うようになった。そんな歴史が詰まった自然豊かな和合の里。長い年月を経て、温かさを感じた。

あいさつでスタート♪

～交通安全・あいさつ・環境～

応募総数172点から最優秀賞に輝いたのは、四年:工藤宏幸さん(古関)の標語です☆

お詫びと訂正

和合の里秋まつりのチラシに掲載しました「菊花展」の曜日において、11月5日【月】は正しくは【火】の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

No.95　2013.10.20 発行
編集発行　庄内町余目第四公民館　和合地域づくり会議　TEL 44－2162　E-mail koumin-4@town.shonai.yamagata.jp　印刷　富士印刷株式会社